



各種学力調査の結果について

今年度、4月に各学年で実施した各種学力調査の結果についてお知らせします。

1 全国・県・市学力調査の結果（全国・県・市と本校生徒の平均正答率の比較）

上回る：○ ほぼ同等：≡ 下回る：▲

	国語	数学	英語
第1学年	▲（市）	▲▲（市）	
第2学年	▲（県）	▲（県）	9月24日実施
第3学年	▲（全国）	▲（全国）	▲（全国）

3年 全国学習状況調査（生徒質問紙）

全国・県の状況と比較して、よい傾向にある項目、課題となる項目を抜粋しました。

よい傾向が出ている項目	課題となる項目
将来の夢や目標を持っている	毎日、同じくらいの時刻に寝ている
自分には、よいところがある	自分と違う意見について考えるのは楽しい
教師からよいところを認められている	自分で計画を立て家で勉強する
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる
人の役に立つ人間になりたい	授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいる

2 課題と今後の取組

<3年>

各教科の正答率は、全国平均や県平均を下回った。しかし、数学科はあと一步でほぼ同等の正答率に近く、1・2年生のころから伸びており成長が感じられる結果である。

国語科は、無解答率がかなり少なくなり、問題に向き合う姿が向上している。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」や「読むこと」については、県・全国と比較して平均を大きく下回っており課題がある。

今後は全体的にどの領域も力の定着が不十分なので、高校入試を意識させ、問題の解決策を具体的に指導していく。また、「書くこと」については、自分の考えが伝わるように根拠を明確にする点に課題が残るため、本文を根拠として考えを導き出す習慣を身に付けけることができるよう問題に取り組ませていきたい。

数学科は、「データの活用」については正答率が高く、県や全国の平均を上回っている。しかし、「関数」については、2年時次の1次関数がまだ定着しておらず、「数と式」にも課題がある。今後は、計算を中心とした反復練習を行うとともに、授業5分前を復習の時間としてさらに活用する。

英語科は、各領域で県平均を下回った。読む力が伸び悩んでいるのは、語彙力が不足しているためである。また、苦手意識がある問題については、読む前から考えることを諦めてしまう傾向も見られる。

今後は既習の文法、単語を用いて、毎日簡単な日記を書くことで、語彙力の向上を図る。また、2分前学習でキュービナを活用し、基本的な文法の定着を図る。

生徒質問紙の結果では、よい傾向が出ている項目に「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」等があった。生徒は、自らの進路実現に向け、前向きにとらえていることや、広い視野で社会に貢献することを願っていることがわかる。また、本校の課題としていた自己肯定感についてもよい傾向が見られ、自分に自信を持ち始めた生徒が増えたことがわかる。

一方、課題となる項目からは、本校で推奨している三点固定の項目のひとつ「寝る時間」については時間が定まっていなかった。また、学習に対して粘り強く取り組む姿勢、家庭での計画的な学習への取組についても課題がある。

<2年>

国語科、数学科ともに県平均を下回った。しかし、2教科ともに昨年からの成長が感じられ、それぞれあと一歩でほぼ県と同等の正答率に近い結果である。

国語科では、目的に応じて必要な情報に着目して内容を解釈する力が伸びてきている。その反面、根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書くことに課題がある。

今後は、新聞のコラムを読ませ、筆者の主張を考え発表させる時間を定期的に設定し、5分間小テストのような扱いで実施し書く力の向上を図る。

数学科は、「関数」や「データの活用」の領域では正答率が高く、理解の定着が図られており、キュービナの活用が効果を与えている。その反面「数と式」や「図形」については課題が明確である。

今後も、授業開始の5分間で1年生の復習を行い、深堀タイムでは、計算を中心に反復練習を行う。また、キュービナを活用し、数学で用いる用語の意味を正しく理解させる。

<1年>

国語科、数学科ともに市平均を下回り、両教科ともに努力を要する結果である。

国語科は、特に「書くこと」の領域の学力が不足している。問題の文章を正確に読み取れないことが、その後の情報と情報との関係について理解し、自分の考えが伝わるように書くことや自分の考えを明確にして書くことにつながっていないと考えられる。

今後は、キュービナや漢字での漢字力の強化、ワークブックの取組で単元学習の理解を図る。

数学科は、ほぼすべての領域で下回っており、基礎的・基本的な内容の理解や計算技能が低いことが課題である。

今後は、小学校の内容と中学1年生で学習する内容で重複する部分が出てくるため、各領域のつまずきにそって対応する。また、放課後等の補充学習や個に応じた復習プリントの活用も行い力の定着を図る。